



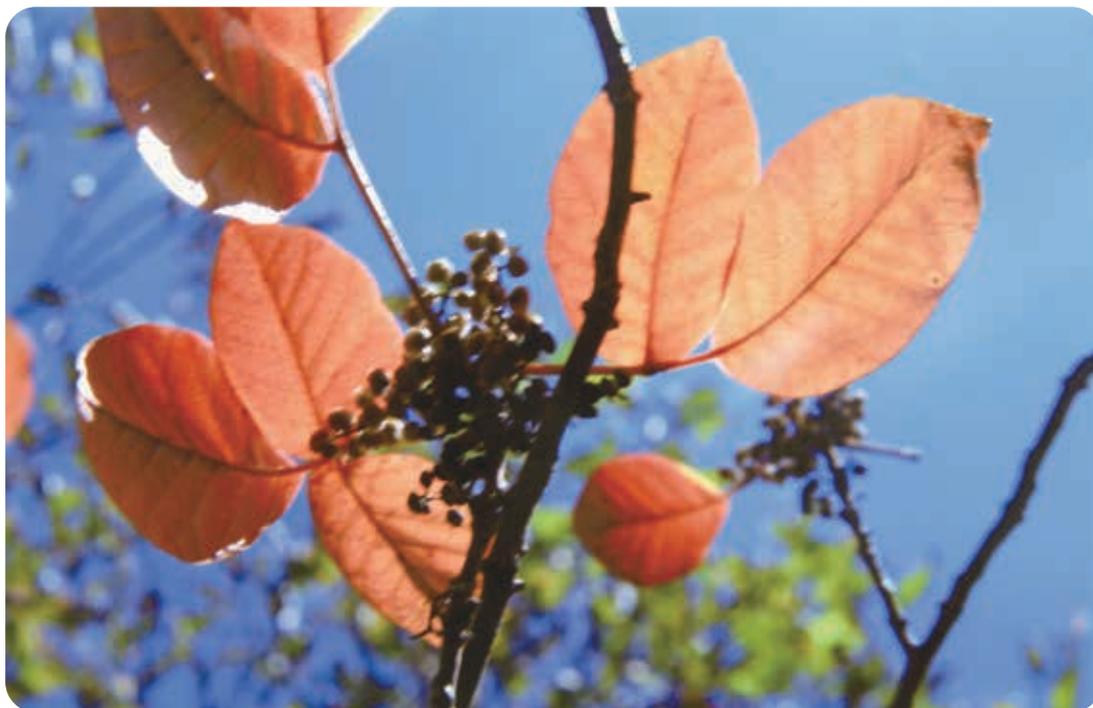
相談電話 097-536-4343

社会福祉法人

大分いのちの電話通信

第111号 2022年12月1日

■ 発行人 理事長 金子進之助 ■ 編集人 編集委員会
■ 大分いのちの電話 事務局 ☎ 097-537-2488
<http://oitaind.sakura.ne.jp>



(撮影 富田 吉俊 氏 富田氏の写真はこれで最終回です。長い間ありがとうございました)

勇気を受けとめて

カトリック海星幼稚園 園長 井下 洋介

『ぼく、モグラ キツネ 馬』(チャペリー・マツケジ
著、川村元氣訳、飛鳥新社二〇二一年)という本を読み
ました。

新聞の書評で気になっていた本で、書店に探しに行った
もののなかなか見つからず、やっと見つけたところは
児童書コーナーでした。

分類上、絵本という括りになるために(実際、本文を
読むだけならば一〇分もかかりません)そういうことにな
ったのでしょうが…。

子どもたちにはもちろんですが、むしろ大人に読んで
もらいたい、自分の友人に薦めたい、そう思わせる本です。

筋書きは単純です。男の子「ぼく」が森の中を歩いて
いくうち、モグラ、キツネ、馬と道連れになりいろいろな
会話を交わす。あるいは交わさずただそばにいるという
もので、そこから察せられると思いますが、この本の
魅力はラフですが温かみのある絵と、なにより動物たち
と「ぼく」との訥々としていながらも、深みのある交わり
にあります。中でも私の心に残った箇所は、次のような
ところです。

「ぼくがたずねた。
「いままであなたが言った、いちばんゆうかんと言
葉はなに？」
馬が答えた。
「たすけて」

遅ればせながら、私は前任の木口善孝氏より引き
継いで、本年度より「大分いのちの電話」理事を務める
こととなりました。いのちの電話活動については、その存在
は存じ上げておりましたが、活動内容については無知に
等しい者です。それでも、電話相談をしようと思えば立ち
実際に相談員の方までつながる相談者の皆さんの心情
を思い量ることはできます。

おそらく、それはきつとも勇気の要る行動であった
ことでしょう。苦しさの中から絞り出した、その勇気と
日々向き合って来られた「いのちの電話」活動に関わる
ことができることに感謝したいと思います。

(社会福祉法人 大分いのちの電話 理事)

本通信誌は、



共同募金配分金により発行しました。

演題 「変わりつつある若者の心の理解

～こころと脳機能の理解による新しい関係性の築き方」

関西大学大学院心理学研究科教授、奈良県臨床心理士会会長
内閣府 子ども・子育て施策総合推進室 子ども子育て施策・研修委員

講師 ^{いしだ}石田 ^{はるひこ}陽彦氏



最近、「生きにくさ」を感じる若者が多くまた、年配者からは「若者とコミュニケーションがとりにくくなった」ということをよく耳にします。

スマホやパソコンなどの通信機器の進歩によってコミュニケーションの形が変わったのもあるでしょうが、人間そのものの「変化（進化）」にも関係があるように思えます。「コミュ障」「おたく」と揶揄された若者から「発達障害」と診断される子どもたちの増加など、その変化は決して「困った問題」ではなく、もしかしたら人類史上、ニューロダイバーシティ（脳の多様性）という側面からは、これからの人類の進化に必要な変化なのかもしれません。

最近私は、人類のコミュニケーションの進化は歴史上においてどのような道筋をたどってきたのか、そして今後どのような進化の道を人は歩んでいくのだろうか、に興味を持って調べています。原始人からホモ・サピエンスの誕生に至る人類の歴史、そして今、急激な科学の進化に多くの人の「こころ」が取り残されそうになっている事実。これまで人の心や行動を解き明かしてきた経験的な解釈科学である精神分析に基づくコミュニケーションの理解と、新しい分野である脳科学（認知科学）の両方から「若者との付き合い方」のヒントを見つけることに興味を湧かせています。そして、新しい科学性を重視した「情報処理作業」

優先の関係性が人間味のあるコミュニケーションを破壊してしまうような気がして仕方ありません。これらのことについて、少しお話しさせていただこうと思います。

(1) コミュニケーションと情報処理の違い

私のような年配者には、最近の若者との付き合い方で困られている方が多いと思います。昔も年配者と若い人の間には「深くて広い溝」がありました。ただ、現在のこの「溝」は、生きてきた時代の違い、年齢差だけの問題ではなく、コミュニケーションそのものの変化によるものではないかと思いついています。彼らは生まれた時から携帯電話とパソコンがあり、日常的に使ってきた年代です。彼らはその「ツール」がコミュニケーションの手段だと思っています。コミュニケーションというのは情報処理の上に、情緒や感情、表情が乗っけてはじめて成立するものだと思うのです。しかし、彼らは電子機器を使った情報処理での情報伝達がうまくはあるのですが、情緒や感情で付き合うことがとても苦手になっているのです。それはコロナ禍になって加速されました。情報処理ばかりが上達してきて、コミュニケーション能力が無くなってきているように思えて仕方ありません。その結果、情報伝達の機械が、今メディアリテラシーをちゃんと教えていないために、子ども達のいじめの道具になってしまうわけです。これはあくまでも情報伝達のものであって



感情的など心や気持ちを伝えるものじゃないんだ、ということちゃんと教えてあげないといけない。もう無くてはならない存在なのだから。デジタルは他との繋がりが見えない、コミュニケーションではない、あくまで情報処理なんだということを改めて伝えていく必要があると思います。

(2) 人の進化と理解

生理学は、遺伝についても脳科学についても、ドンドン進歩しているように見えます。ただ、現状はまだ脳科学による証明は、昔から当たり前で生活の中で言われていることの正しさの証明にすぎません。我々日本人がずっと子育ての中で伝えてきた言葉、あるいは生活習慣。それはエビデンスがない、科学じゃないと言われるかもしれませんが、何百年も通して、日本人だけではなく世界中の人類が築いてきた歴史があります。人間生活の知恵に関して理解する事を、経験的解釈科学と言います。そちらの方が日常では実感的には明確なエビデンスがあるんだということです。次はそのお話を脳科学や遺伝学で説明しながら、経験的解釈科学が本当は情報処理ではなくて、人のコミュニケーションがどれだけ大事かというかたちでお話させていただきたいと思います。

まずシナプスの話からです。「発達障害」は研究の最先端では「神経発達症」と呼ばれ

始め、「障害」ではなく「ニューロ・ダイバーシティ」、つまり脳の多様性の問題として扱われ始めています。脳にはシナプスという神経伝達回路があります。それが交錯して人間神経回路として知能になっていくのですが、実はこの神経系シナプスが一番増えるのが3歳前後で、その後シナプスの連鎖は徐々に減ってしまいます。「三つ子の魂百まで」ということわざをご存じでしょう。これは、このようなことが科学で証明される前にそういう経験的解釈科学的によって「三つになるまでの子育てが一番大事なのだよ」と言いつがれてきたわけです。シナプスは3歳くらいから刈り込み（プルーニング）が始まります。自閉症スペクトラムの人たちはその刈込が遅れ、シナプス同士のつながりは増える一方です。ノーベル賞を取っている人は皆、このシナプスの数が多いアスペルガー傾向の人が多くいます。彼らのシナプスはどんどん新しいことを始めるエネルギーになります。また、認知という言葉が最近よく聞かれますが、認知というのは本来「脳の幻想」のことを意味します。つまり何もないところから新しいものを生む力です。しかし、彼らは情報処理能力が高いのですが、そこに情報処理過程では理解しにくい感情や気持ちが入ってくるとものすごく混乱します。若いうちは、彼らはコミュニケーションが下手だけれども、成長とともに徐々にコミュニケーション能力も身につけていきます。それは、今の若い人たちのコミュニケーションもそれに近いんじゃないでしょうか。感情交流よりも情報処理する能力が長けている。情報処理優先にこれからの若い人たちは進むのかもしれませんが。

次に人の進化からコミュニケーションについて考えたいと思います。猿人が生まれたのは170万年前、そして、クロマニヨン人が



生まれます。クロマニヨン人が生まれたのが10万年前。170万年前から160万年間は大きな進化はなかった。それが、10万年前に急にラスコーの壁画を描いたような人類が現れた。でも、ラスコーの壁画も牛が何頭いるという写実だけなのですが、それが1つの情報伝達手段になっていました。そして4万年前、ようやく今の人間の原型のホモ・サピエンスが生まれた。つまり170万年前から猿人が生まれていたのに、たかだが4万年前に現在の最終系の人間が形づくられた。そして、4万年前にそれまでのクロマニヨン人を駆逐していくのです。なぜ、4万年前にクロマニヨン人は、ホモ・サピエンスにとってかわられたのでしょうか？それは、ホモ・サピエンスは認知が急激に発達したヒトだからなのです。つまり何もないところから新しいものを生む力、脳の幻想力をホモ・サピエンスは持っていたのです。認知に大革命が起きた人間が、ホモ・サピエンスだったのです。なにもないところから神をつくりあげました。神とは想像のものです。神という想像のものを創ることによって自分たちを守ろう、そして生活しようとした。そして目の前の動物を狩りするだけでなく、植物を植え、植えたものが成長して収穫できるという、先を想像する力をホモ・サピエンスは持っていたのです。それが170万年かけた人間の進化です。

(3) 科学の進化と若者のころ

しかし、現代人の進化はどうでしょう？自動車も、電気すらもなかった。今は、小型のコンピューターであるスマホをもって歩いています。今の科学技術の進化のスピードは昭和までの進化の1000倍の速さで進化している、とも言われています。そんな速さで進化する若者世代についてこうすること自体、私には無理なのかもしれません。若者のコミュニケーションは、そのような急速な科学の進化の上に成り立っています。科学の進化が幸せをもたらすものならば、彼らほど幸せな人はいないはずなのです。残念ながらそうならないのです。直接的なコミュニケーションに歪みが生じてしまい、自ら社会から離脱して孤立してしまうのです。コロナ禍でその傾向は加速しました。その結果、若者の自死が増えているのです。そして自死する若者は、誰にも相談せずに自死しているケースが殆どです。自分の苦しさについて、インターネットで検索して自死を選んでしまっているのです。今の若者に必要なことは「人に相談する力」「人を頼る力」をつけることではないでしょうか。そのためには、インターネットやコンピューターが苦手な年配者が、おせっかいと言われても対面によるコミュニケーションを大切にして、人を頼ることの幸せと安心を、今の若者に伝えないといけないのだと。



演題「精神医療からみた引きこもりとその解放」

大分駅南クリニック院長、医学博士、大分県職員のメンタルヘルス相談
こころの健康相談員、元大分大学医学部准教授

あきよし じょうたろう
講師 穂吉 條太郎 氏



不登校といじめとひきこもり

今年発表された文部科学省の統計によると、大分県における小学校・中学校・高校の不登校の数は過去最多となっている。また小学校・中学校のいじめ件数は全国第3位となっている。このような状況の中で、「ひきこもり」の子ども達の数の増加が危惧される。「ひきこもり」の定義は、「様々な要因の結果として社会的参加を回避し、原則的には6ヶ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態である。原則として、統合失調症に基づくひきこもり状態とは一線を画した非精神病性の現症とするが、実際には確定診断がなされる前の統合失調症が含まれている可能性は低くないので留意すべきである」とされている。

当院は周りを多くの小学校・中学校・高校に囲まれている地理的要因もあってか、不登校・いじめなどの相談が多い。最近では、不登校やいじめの相談が増えている。「ひきこも

り」の子ども達と接すると、多くはゲーム依存やSNS依存に陥り、それに対して両親は子どもとゲームやSNS時間の設定などを約束しても、子ども達はなし崩し的に約束が守れないことも多い。親が約束を守ることを子どもに強く指導すると、子どもによっては、暴言や暴力に訴えることもあり、親はその対応に悩まされることになる。

子ども達はSNSを通じた友人との交流だけでは生の人間関係が希薄となり、社会的に孤立した状況となる。中学3年生の子どもは、高校進学に苦慮することになる。中学校における不登校は、高校進学は困難となる。最近では通信制高校の数も増えて選択肢も広がっている。親としては、中学校で不登校であった子どもが、高校で通学を続けられるか不安である。中学校不登校の子どもにとって、通信制高校進学は大きな環境変化であり、自らの再生の良い機会と捉えたい。また一般的に県立高校ではアルバイトは認められないが、通信制高校では認められている学校が多いので、出来るだけ社会経験を作る意味で小生は子ども達にアルバイトをすすめている。アルバイトをする一つの目的として、在学中の海外留学をすすめていて、アルバイト料はその資金として貯金をすることもすすめている。海外での生活は、通信制高校への入学や転校と類似の環境変化という効果を呈している。

不登校の子どもにとって、通信制高校への入学や転校以上に、海外の学校への転校は

強いストレスを感じる事が予想されるが、それ以上に得るものは大きいと思われる。国外に出ることは、かなりの恐怖を経験することが予想される。恐怖の体験は不登校の対局にあるものと考えられる。しかし恐怖の

体験を乗り越えた暁には、自己に対する自信は強固になると予想される。登校が全てでないが、「高校は卒業したい」という子ども達の希望は、あらゆる手段を用いてかなえてあげたい。

当日は感染予防を徹底して開催しましたが、170名の方に来場いただきました。
アンケートの一部を紹介いたします。

基調講演 アンケート結果

インターネットの普及に比例して、コミュニケーションの希薄化を私も感じるがありました。もっと、身近な人に頼れる力、弱い部分を他者に見せられる関係性をつけられることが、本当に現代の人に必要であると感じました。そして、相談＝解決することではなく、続けていけることが大切であると聞き、私自身胸に落ちるものがありました。

つい、不登校傾向の生徒へ、教室へ向かわせるための声かけをしまいがちですが、まずは関係をつくること、問題解決をあせらないことが大切であると気づかされました。AI相談の取り組み、すごいです。実際学校現場でどういう意見や事例があるか、知りたいです。

相手が本当に言いたいことを言ってくれるまで聴くこと。それも暗い感じで聴くのではなく、笑顔になって帰ってもらうように冗談を言って和ませることが大事である。また、臨床心理士と一緒に考えること、答えを出すことが目的ではないことなど、とても勉強になった。シナプスの量が3歳が一番多く、アスペルガー症候群の人も多いことも驚きました。

若い人に欠けている「相談する力」「人を頼る力」について特に共感しました。教育カウンセリングの現場にて日々感じているものでした。相談する力の育成、そしてそのための練習はますます必要となってくるとおもいます。相談しても大丈夫だと思える人、環境づくりが課題だと痛感しました。また、最後まで寄り添い続けること、まずはラポールを構築していくことが大切と、カウンセラーとしての初心を改めて肝に銘じたいと決意新たにいたしました。

2部講演 アンケート結果

精神科の先生が「不登校」に理解し、かわりをしていただいていることに驚きました。精神疾患、引きこもり等、細かいわかりやすい説明をありがとうございました。

とても興味深く拝聴させて頂きました。仕事柄、患者さんと対話する機会があるので帰って再度資料をじっくり読み直したいと思います。

具体的、現実的なお話をたくさん聞けてためになった。親がすべき十カ条、障害年金、自立支援医療、精神障がい者保健福祉手帳など。マインドフルネス、ヨガ、実践することがたくさんある。希望につながるお話でありがたかったです。

現在、不登校の生徒、発達障がいなどの生徒が増加してきています。私たちはどのように接していくことが大切なのか、両親との関わりをどうすべきなのか、今回の講演で少しヒントをいただいたように思います。

◆◆◆ あなたも相談員になりませんか ◆◆◆

大分いのちの電話
第40期電話相談員養成講座
受講生募集

- ◆講座 …………… 前期 2023年4月4日(火)～8月1日(火)
後期 2023年8月8日(火)～11月21日(火)
- ◆スーパービジョン …………… 2023年12月～2024年3月
- ◆会場 …………… コンパルホール(大分市府内町1-5-38)
- ◆受講料 …………… 前期 15,000円
後期 10,000円(15,000円のうち、県より5,000円補助金)
- ◆申込先 …………… 大分いのちの電話事務局
〒870-8799 大分中央郵便局私書箱23号
電話 097-537-2488 FAX 097-537-2492
- ◆申込期限 …………… 2023年3月31日(金)
受講申込書に記入し、FAXまたは郵便にてお送りください。
(ホームページからの申し込みはこちらへ→)
- ◆定員 …………… 50名になり次第締め切ります。



相談員の声



相談員として一年が経とうとしています。研修中は一週間が早いと思っていたことが、今では懐かしく感じます。

その中で思い出されるのは、どの講座でもよく言われていた『傾聴』という言葉です。『聞く』は声が自然に耳に入ることですが、『聴く』は積極的に相手の話に耳を傾けるということです。できる事なら、もう一度受講したいです。今なら当時よりも理解できると思います。

実際に電話相談をしてみると、年齢層が広く相談内容は人それぞれで、本当にこんなことかと思うことも多々ありますが、じっくりと話を聴いた後「話を聴いてくれてありがとう」と言ってもらえると、うれしいです。

(相談員)

ご援助ありがとうございます

2022年7月21日より2022年11月25日までに、次の方々から2,926,143円のご支援をいただきました。永きにわたり変わることなく支えてくださっている皆様、そして新たにご浄財をお寄せくださいました個人や法人の皆様、衷心より感謝申し上げます。今年もバザー開催は見送られましたが多数の方から浄財や品物をお送りいただきました。重ねてお礼申し上げます。

(*は新規会員の方、※はバザー寄付の方です) 敬称略50音順

賛助会員 <個人の部 33件 297,000円>

★ 50,000円 島田雅美	金雲後佐高竹立	谷藤藤村下川	正和昭明純久粧公	明子信子也香子作	立長久寺保野田	川野久保野田	敏徳裕の三建 晴	子純介正紀光 夫	阿佐佐深藤町山和	部藤藤江村田田	真奈美恭 ト敦正	理津子子暢工士敏	★ 3,000円 衛佐姫無	純計 子実志氏				
★ 10,000円 岩崎明眞龍恭	★ 10,000円 岩衛大甲	★ 15,000円 帆秋直美	★ 10,000円 岩崎藤嶋斐野庄	★ 10,000円 岩崎藤嶋斐野庄	※島田悦子郎氏	※秦野名氏	※無名氏	★ 6,000円 板井ケイスケ	★ 5,000円 石田文勝	※鎌田文勝	※後立秦藤増山吉無	藤川丸澤田原名	美公健邦真清真氏	智作太郎彦弓美子氏	★ 4,000円 無名氏	★ 3,000円 無名氏	★ 2,000円 江口智麻	※此本

寄付金 <個人の部 32件 385,000円>

★ 80,000円 河野聡美	★ 50,000円 無名氏	★ 30,000円 遠矢洋平	★ 20,000円 井上邦治	★ 15,000円 帆秋直美	★ 10,000円 岩崎藤嶋斐野庄														
-------------------	------------------	-------------------	-------------------	-------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------

賛助会員 <団体の部 17件 490,000円>

★ 100,000円 *一般社団法人大分県建築構造技術センター 宗教法人カトリック大分司教区大分教会	★ 50,000円 *アイデア総研 税理士法人 *(医)大分電設	★ 20,000円 医療法人向心会大貞病院	株式会社ヤノメガネ *白津開発(株) 古手川産業株式会社 *松栄電設工業(株) (株)マイダスコミュニケーション	★ 10,000円 朝日警備保障株式会社 (医)近藤整形外科	大分トヨタ自動車株式会社 大分ロータリークラブ 萱島酒造有限会社 キリストの福音大分教会 光国寺和光佛教婦人会
--	--	--------------------------	--	--------------------------------------	---

寄付金 <団体の部 8件 522,143円>

★ 180,000円 大分東急ゴルフクラブ	★ 175,000円 大分城西ロータリークラブ	★ 100,000円 大分臨海ロータリークラブ	★ 22,643円 講演会寄付	★ 20,000円 *イワオ事務機株式会社	★ 11,500円 バザー売上金	★ 10,000円 扶桑工業株式会社	★ 3,000円 有限会社文化プロセス
--------------------------	----------------------------	----------------------------	--------------------	--------------------------	---------------------	-----------------------	------------------------

助成金 <1件 200,000円>

★ 200,000円 大分県社会福祉協議会

河野聡美さんの音楽活動の集大成ともいえる、ピアノリサイタルが7月1日音の泉ホールで開催されました。心震える繊細かつ力強い演奏を聴かせていただきました。コロナ禍の感染予防対策のため、感謝の気持ちは、「ブラバー!!」、「ありがとう!!」2枚の横断幕でお礼とさせていただきます。長年にわたり、リサイタルの収益金を「大分いのちの電話」にご寄付いただき、ありがとうございました。



移転寄附 〈個人の部 75 件 567,000 円〉

★ 30,000 円 帆秋善生 小林達也 無名氏	雲和子 河野信治 小坂口佳乃子 澤丸はるみ 軸丸順一 染矢宮陽子 武久寺徳純 長東保裕の介 東野潤二 長曾根不二子 中里伸トオル 前田野申正 矢吉田啓治 吉原真理子	★ 5,000 円 阿部真理子 石黒篤子 石井幸富枝 江村恭正宏子 小川置恭英子 笠藤村久美香 佐藤村久美香 高橋真理子 立川敏子 土谷十代子 名倉健太郎 秦間文男・恵 挾野千涼 藤井	堀正子 帆直美 秋建紀 野澤真弓 増上和代氏 村無名氏	★ 3,000 円 板井ケイスケ 井上富江子 藤純陽一 遠藤美保尚 大野定生 小田文枝 太田君江 岡川カヲル 小友	清末照美 倉橋伸一 児玉玲子 河野真由美 高野橋健次 矢羽田典光 西津典純 本尾至江 松尾豊子 渡辺名氏 無名氏	★ 2,000 円 岡本龍治 吉賀みや子
-----------------------------------	---	--	--	--	--	----------------------------

移転寄附 〈法人の部 26 件 465,000 円〉

★ 100,000 円 大分県教組	セントルカ産婦人科 吉成電機株式会社	ゴリラ大分株式会社 光国寺和光佛教婦人会
★ 50,000 円 (医)親和会衛藤病院	リバーサイド病院	公益社団法人大分県薬剤師会
★ 30,000 円 日本福音ルーテル大分教会	★ 10,000 円 (医)慈愛会向井病院	山英食品
★ 20,000 円 大分郡市医師会	大分みらい信用金庫	社会福祉法人 萌葱の郷 (医)はさまクリニック
株式会社鳥繁産業 (株)プリメディア 協栄工業株式会社	株式会社ゴリラ (株)テレビ大分 株式会社久光大分 清瀬病院 九州リース販売株式会社	★ 5,000 円 大分海運株式会社 東九州設計工務株式会社 中津ライオンズクラブ

移転に際してのご寄付へのお礼

社会福祉法人 大分いのちの電話 理事長 金子 進之助

秋の深まりとともに、朝夕はかなり寒くなってまいりました。皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

さて、先日お願いいたしましたセンター移転に伴うご寄付につきまして、多くの方からご厚情を寄せていただきました。別掲の記事にもありますように、11月25日の段階で、75名の個人様から、額にして567,000円、26法人様から465,000円、合計1,032,000円のご厚志を頂戴することができました。

心からお礼申し上げます。そして大切にに使わせていただきます。

新しいセンターは、相談員の評判もよく、落ち着いて相談にあたることができるようです。寒さに向かいますが、皆様方のご健勝をお祈り申し上げお礼の言葉といたします。

令和4年度 第2回大分県自殺対策講演会

日 時 … 2023年2月5日(日) 13時00分～16時00分

場 所 … J:COM ホルトホール大分 3F 大会議室

基調講演 高橋 聡美氏

(中央大学人文科学研究所客員研究員)

演題 「折れる心の守り方 ～生きづらさにどう寄り添うか～」

2部講演 齋藤 建児氏

(大分大学福祉健康科学部講師)

演題 「ストレスフル・ライフイベントへの対処

ー主体的外出場所による補いー

大分いのちの電話日誌

8月 1日 「大分いのちの電話通信」第110号 発行
2日 第39期電話相談員養成講座前期課程・
第17回カウンセリング公開講座 修了式
10日 フリーダイヤル相談「自殺予防いのちの電話」
16日 第39期電話相談員養成講座後期課程A 開講式
24日 第1回 スーパーバイザー会
25日 第2回 全体研修会
演題「発達障害の理解と支援」
講師 大分大学教職大学院 教授
佐藤 晋治 氏
26日 大分県社会福祉協議会より 善意銀行配分金
20万円頂く
9月 10日 フリーダイヤル相談「自殺予防いのちの電話」
11日 第46回いのちの電話 自殺予防シンポジウム
くまもと大会

大分いのちの電話は
「苦情対応規程」を定めています。

10月 10日 大分県自殺対策講演会
基調講演
演題「変わりつつある若者の心の理解 ～こころと
脳機能の理解による新しい関係性の築き方～」
講師 関西大学大学院心理学研究科教授
石田 陽彦 氏
2部講演
演題「精神医療からみた引きこもりとその開放」
講師 大分駅南クリニック院長
穂吉 條太郎 氏
10日 フリーダイヤル相談「自殺予防いのちの電話」
15日 39期生一日研修
31日 大分県犯罪被害者等支援連絡協議会
11月 1日 日本いのちの電話連盟 相談員全国研修会
～30日 2022 ON LINE
大会テーマ「気づき 認め合い つながりあおう」
10日 フリーダイヤル相談「自殺予防いのちの電話」
22日 第39期電話相談員養成講座後期課程A 修了式
12月 1日 「大分いのちの電話通信」第111号 発行

編集後記

巻頭言をいただいたカトリック海星幼稚園 園長 井下洋介様 ありがとうございます。いのちの電話が「たすけて」と言ってもらえる場所でありたいと思いました。

また恒例の大分県自殺対策講演会で関西大学の石田陽彦先生の相談する力・人に頼る力が欠けている(情報処理能力だけが上達してコミュニケーションが取れない)若者の現状と、大分駅南クリニックの穂吉 條太郎先生の助けを求めることが出来ない引きこもりの行動についてご講演賜りました。お二人に対し心から御礼申し上げます。

コロナ第8波の影がちらついております。生き辛い世の中のため、電話相談も多くなっているように感じます。少しでも相談者の方に寄り添えるよう『傾聴』に心がけます。 (編集委員)